

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	30	学校名	海津明誠高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	歴史と伝統を誇る海津市唯一の高校として 普通科、商業科、家庭科の特長を活かした探究的で協働的な活動を通して 地域を支える人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	生徒一人一人を大切に、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。 (1) 自らの目標を達成するための確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成 (2) 基本的な生活習慣を培い、礼儀や規律を重視した指導の徹底 (3) 「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域社会から信頼され支持される学校づくり		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら挨拶する明誠高生」自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 「積極的に学ぶ明誠高生」様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の3つの学科がある学校の特色を生かし、地域との連携を深め、地域課題を発見・解決するふるさと教育の推進 探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実し、協働的な学びを通じた、個々の「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」の育成 ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、進路希望と特性に応じたコース選択によった、大学進学に対応できる学力の向上ならびに、地元企業等で即戦力となる人材の育成 商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、知識基盤やグローバル化といった多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通して、生活における様々な課題を自ら解決できる力と職業観・倫理観の育成 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 人とのつながりの中で、感謝の気持ちを忘れずに、規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志を持った生徒 学習や学校内外の諸活動（HR活動・生徒会活動・部活動・学校行事・ボランティア活動等）において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 人の意見に耳を傾ける姿勢・自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 高校生活を送る海津市を始めとする自分が育ったそれぞれの地域とのつながりを大切に、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いを持った生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 海津市唯一の高等学校として、地域とのつながりが深く地域からの期待も大きいが、少子化や高校選択の多様化の中で慢性的な定員割れを起している。 義務教育分野の学習でつまづきを感じている生徒に対する丁寧な支援に加えて、学習意欲を喚起するような学校全体の取組の工夫改善が必要である。 友人間の小さなトラブルに適切に対応する力が乏しく、人間関係を築くことに苦手意識をもっている生徒も少なからずおり、生活面でも丁寧な見守りが必要である。 海津市の地域課題解決につながり、かつ、学校全体（普通科、専門科）が一つになるような大きな取組を考えていく必要がある。 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	生徒の興味関心や進路等に応じた具体的な目標を定めさせ、「自ら学び自ら考える」態度を育成する。 正解が一つではない問に対し、納得解を得られるような探究型学力を育成する。	
	進路指導	進路サポーター制度を活用して、生徒一人一人の適性を大切に、生徒が自らの進路を自らの手で実現できるようにキャリア発達を支援する。 キャリア教育の全体計画に基づき「進路意識・学力・進路実現性」を高める事業を全校体制で計画的・継続的に実施する。	
	生徒指導	生徒が自他の生命の安全と人格を尊重できるような支援や指導を実施する。 遅刻防止指導や授業の開始・終了時の挨拶等を通して、基本的な生活習慣や礼儀正しい態度を育成する。	
	特別活動	生徒の自己肯定感を育み、自己実現を図るための場として、部活動の充実を図る。 活力ある高校づくりを目指し、地域のイベントやボランティア活動等への参加を通して地域貢献活動に取り組む。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合 評価 A.B.C.D
学習指導	地域を知る学習、地元企業や地域の方々の共同学習を深め、「ふるさと海津」に貢献できる人材を育成する。	施策Ⅰ-4	生徒による授業評価・分析、保護者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと海津」の人材育成：普通科「総合的な探究の時間」を活用した地域を知る学習を実施。3年生普通科「政治・経済」の主権者教育では「海津市議会の傍聴体験」を実施。専門科では、地域に根差した連携活動を継続実施。地域の教育資源を活用した、地域に愛される教育を工夫して実践中。 授業研究・ICT活用能力：公開授業週間における教員相互交流やICTを活用した授業実践の交流を実施。 学力定着：学科・クラスの生徒の実態に応じた丁寧な学び直しと、放課後の個別指導の取組。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公式のInstagramを活用して、海津明誠高校の教育活動の「魅力」ある姿を自信をもって発信することができた。 ▲来年度の1年生から、タブレットの自費購入を踏まえ、さらにICT機器を活用した教員の授業スキルアップ、授業改善を目指す。 ○海津市のヒト・モノ・予算の支援を活用し、普通科等の「探究学習」の推進。 ▲学校での学びがさらに充実するような、家庭学習の手立てを今後も検討していく必要がある。 	B
	生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業研究や授業形態の工夫を図る組織風土（学びあいの風土）を作っていく。	施策Ⅱ-8	公開授業週間の教員交流、校内研修				
	ICT機器を活用した授業実践、授業研究を通して、生徒自身のICT活用能力を高める。	施策Ⅱ-9	生徒によるICTを活用した発表教員によるICT活用の実践交流				
	中学校や高校での既習の学びを振り返りながら、個別対応により基礎学力の定着を図る。	施策Ⅱ-8	基礎学力テスト結果分析				
進路指導	生徒一人一人が描く未来像や各々の学力に適した補習や試験を実施することにより学力の向上を図る。	施策Ⅱ-8	補習授業の充実と、各種試験結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> 検定や外部模試対策としての補習等を充実させ、生徒の意識を高めるとともに、結果を分析し、次へつなげることができた。 3年生の地元企業見学や専門科における施設実習を通して、キャリア発達を図ることができた。 外部講師による就職ガイダンスや進学ガイダンス、保護者向けの進路説明会等を実施し、進路意識を高めることができた。 「進路だより」や「すぐる」等の各種ツールを活用し、必要な情報を適宜発信した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会との連携を密にするとともに、進路サポーター制度を活用して、個に応じたきめ細かい進路支援を行うことができた。 ▲生徒が自己の進路を主体的に考え、自ら行動できるよう、体験的な学習やガイダンスをさらに充実させる必要がある。 ▲進路情報が個々の生徒及び保護者に確実に届くように、発信方法を工夫していく必要がある。 	B
	地元産業・企業及び認定こども園等と連携し、商品開発や研修を通じキャリア発達を図る。	施策Ⅱ-13	学習成果発表会の評価や検定試験結果				
	学年会等と連携し進路サポーター制度を円滑に運用すると共に、外部講師によるガイダンスや保護者対象進路説明会を効果的に機能させる。	施策Ⅱ-14	生徒アンケートと保護者アンケート				
	「進路だより」や「進路の手引き」、HP等を活用して、職員・生徒・保護者にタイムリーな情報を発信する。	施策Ⅳ-20	「進路の手引き」ワークシートの確認				
生徒指導	生命の尊重の呼びかけや不審者被害防止指導を実施する。	施策Ⅰ-1	集会・LHR等での指導や呼びかけの実施	<ul style="list-style-type: none"> 生命にかかわる事案や不審者被害は無く、命を大切に行動がとれている。 MSリーダーズによる交通安全運動を3回行うことができたほか、10月には集中的に「ヘルメット着用推進運動」を実施することができた。 遅刻者数(12月現在)がのべ704人で、昨年度の714人を上回るペースである。 いじめの早期発見・早期対応ができており、その都度、家庭との連携を図ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生命にかかわる事案はいつ起きるか分からないので、継続的に生徒に呼びかけていく。 ▲MSリーダーズが「ヘルメット着用推進運動」を積極的に行ったが、ヘルメット着用率はなかなか増加しなかった。今後、本校として義務化する必要があるかどうかについて検討したい。 ▲現在も継続して累進的な遅刻防止指導を生徒支援部から行っているが、遅刻者の減少には至っていない。生徒支援部以外からの指導も含め、効果的な指導法について考えたい。 	B
	MSリーダーズが中心となって、挨拶や交通安全をよびかける。	施策Ⅲ-19	年間交通事故者数ヘルメット着用率の確認				
	家庭と連携した全教員による遅刻防止指導を徹底する。	施策Ⅰ-7	年間遅刻回数のおよそ500回以下				
	教育相談活動やいじめ・不登校を早期発見・早期対応するための組織体制と家庭との連携強化。	施策Ⅰ-3	日常的な情報共有の実施会議や調査の実施				
特別活動	生徒一人一人が主役となって他と協働しながら活躍できる生徒会活動を実施する。	施策Ⅰ-1	生徒が運営する行事の割合	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の明誠祭文化の部・体育の部を実施することができた。 学校行事（伝達表彰・各部活動の壮行会）では、生徒会が主体で進めることができた。 地元で開催される行事への積極的参加によって、地域連携をし、SNSを通して学校の様子を知ってもらうことができた。 ヨット部インターハイ5位入賞。 商業部（電卓の部）全国大会出場。 陸上競技部（やり投げ）、ウエイトリフティング部、東海大会出場。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教員と生徒がお互いに考え、意見を出し合い、より学校行事や生活が楽しくなるように自ら考えることが定着してきている。 ▲各科目で、地域連携を実施しているので継続しさらに広げられるようにしたい。 ○Instagramで学校の様子を知ってもらうことができた。 	B
	地域行事への協力やボランティア活動の推進等、地域との連携を強くする。	施策Ⅰ-4	各行事やイベントへの参加実績				
	部活動を活性化し、全国大会・東海大会への出場・県大会上位入賞を目指して活動する。	施策Ⅳ-24	各大会への出場実績・成績				

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年1月9日	学校関係者評価	実施日：令和8年1月23日
<p>学習指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①興味・関心が高まる探究的な授業の開発を行い、家庭学習と学校での学びが、より加速度的になるような工夫を図る。 ②少人数ならではのメリットを活かし、「個」に応じた学習指導、学習支援及びキャリア支援を行っていく。 <p>進路指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①進路意識を高める事業として、現行の「学び塾」を発展させた形の大学等による出前授業や、地元企業との懇談会を実施する。 ②応用力を高めて進路実績につなげるために、現行の補習及び模擬試験対策、進路サポーター制度等を一層充実させる。 <p>生徒指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①重点指導項目に授業規律の徹底を入れ、教員全員で生徒が授業に集中できる環境を整える。 ②MSリーダーズ活動において、生徒の主体性を生かした活動を展開していく。 <p>特別活動に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①昨年度から生徒主体の活動や行事を実施し、今年度も継続して実施することができたので、来年度以降も継続して実施していく。また、与えられた役割や仕事に対する生徒の意識向上を目指す。 ②部活動離れが続いているが、全員加入を目指し、活躍できる生徒の発掘や各部活動の活性化を進める。 		<p>学習指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> 探究活動については、小・中学校でのふるさと教育を活かして地域の課題解決となる取組ができるとよい。 少人数ならではの丁寧な学習指導を受けられるところが魅力的である。教員がスキルアップし、生徒の学力向上に努めてほしい。 <p>進路指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師や企業からの出前授業等は、引き続き継続していただきたい。今以上に間口を広げてほしい。 生徒数が少ないメリットを活かして、一人ひとりに寄り添った関わりができていてよい。 <p>生徒指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> 海津警察署等の関係機関とも連携し、自転車ヘルメットの着用率アップを目指して取組めるとよい。 遅刻回数を減らすためには、理由と課題の把握と改善策が重要である。減少するように努めてほしい。 <p>特別活動に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒主体で、生徒たちの思いを尊重しながら各種活動に取組んでおりよい。今後も継続してほしい。 地元行事への参加や地元企業との連携を継続するとともに、今後の更なる拡大を期待している。 	